第 197 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（令和 元 年 12 月 20 日提出）

１．題　目：就労の多様性の実現へ～地域による、地域の未来のために～

２．日　時：　令和 元 年 12 月 6 日（金）　17：15 ～19：30

３．場　所：長崎大学グローバル教育・学生支援棟 4 階　文教スカイホール

４．主　催：長崎大学 障がい学生支援室

５．対　象：学内教職員及び学外者

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに〇を記入すること）
［　〇　］(1)　教員の教育活動に関するもの
☑e 教育方法改善のためのワークショップまたは授業検討会
［　〇　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの
☑k その他（授業（インターンシップを含む）における障害のある学生や社会・職業への移行に困難を示す学生へのキャリア教育の観点整理・授業構築のあり方に貢献する

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
大学においては、高等教育が若者にとって「社会に出る直前の教育段階であることを踏まえ、学校から社会・職業への移行を見据えた」キャリア教育・職業教育の改善と充実が課題となっている（厚生労働省）。本学における 2021 年度のキャリア教育科目の必修化はこれを象徴するものでもある。必修化にともなって、あわせて、各学部の授業においても、教職員一人ひとりが学生の卒業後の道を考慮しながら、学生が自発的に自分なりの道が選択できるようにサポートする必要がある。そのために、教職員が学内で行われている支援状況、そして長崎県内の資源や取り組みを知ることは、学生と関わる中で適切な教育や指導につながると考えられる。
本学で把握しているだけでも約 190 名の障害のある学生が在籍しているが、この学生たちにとっても社会・職業への移行は課題の 1 つであり、さらには、障害があると把握していない学生でも、社会・職業への移行場面で困難を抱える者は少なくない現状がある。
本 FD は、これらの学生が、在学中に自らのキャリアについて主体的に考えることができるようにするために、そして大学から社会・職業へスムーズに移行し活躍するために何ができるか、産官学の立場から意見を出し合い模索するものである。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）

1. 開会の挨拶　17:15－17:25

赤石　孝次（障がい学生支援室 室長）

2. 第１部：講演　17:25－18:15

「発達障害学生に対する安定的な就労を支える連携の在り方～大学と地域就労支援機関との連携について」

日下部　貴史（富山大学学生支援センターコーディネーター）

3. 休憩　18:15－18:30

4. 第２部：パネルディスカッション及び質疑応答　18:30－19:20

5. 総括及び閉会挨拶　19:20－19:30

調　　漸（障がい学生支援室 副室長）

９．参加者：　130 名（学内教職員 40 名・学生 9 名・学外 81 名）

（内訳）

| 所　　属 | 人　　数 |
|---|---|
| 多文化社会学部 | 1 |
| 水産学部 | 2 |
| 医学部保健学科 | 1 |
| 工学部 | 1 |
| 経済学部 | 1 |
| 環境科学部 | 1 |
| 教育学研究科 | 1 |
| 熱帯医学研究所 | 1 |
| 原爆後障害医療研究所 | 1 |
| 生命医科学域 | 2 |
| 地方創生推進本部 | 1 |
| キャリアセンター | 3 |
| 子どもの心の医療・教育センター | 1 |
| 大学教育イノベーションセンター | 1 |
| 長崎大学病院 | 2 |
| ダイバーシティ推進センター | 2 |
| 保健・医療推進センター | 6 |
| 学生支援部 | 6 |
| 障がい学生支援室 | 6 |
| 学生 | 9 |
| 学外者 | 81 |
| 計 | 130 |

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価等（アンケートの集計結果を記述する）

1. 人数および所属

| | 長大教職員 | 外部 | 計 |
|---|---|---|---|
| 参加者数 | 47 | 83 | 130 |
| 回収数(回収率) | 21(45%) | 51(61%) | 72(55%) |
| 教育職員 | 12 | | |
| 事務職員 | 3 | | |
| 技術職員 | 4 | | |
| 学生 | 1 | 2 | |
| 教育・保育関係 | | 24 | |
| 福祉関係 | | 4 | |
| 医療関係 | | 1 | |
| 就労関係 | | 8 | |
| その他 | 1 | 12 | |

2. 年代

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 20 歳未満 | 0 | 0% |
| 20 代 | 5 | 7% |
| 30 代 | 12 | 17% |
| 40 代 | 21 | 29% |
| 50 代 | 28 | 39% |
| 60 代 | 6 | 8% |
| 70 代以上 | 0 | 0% |
| 計 | 72 | 100% |

3. 参加動機について(複数回答可)

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 自分自身や家族のため | 13 | 18% |
| 仕事上必要なので | 51 | 71% |
| 障がい者の支援等に関心があるから | 44 | 61% |
| 社会的関心が高まっているから | 6 | 8% |
| その他 | 4 | 6% |
| 計 | 118 | |
| 実数 | 72 | |

4. 講演会をどのようにして知りましたか（複数回答可）

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 長崎大学ホームページ | 16 | 22% |
| ポスター・チラシ | 14 | 19% |
| メール | 15 | 21% |
| テレビ・新聞等 | 0 | 0% |
| 担当者からのすすめ | 9 | 13% |
| 上司からのすすめ | 1 | 1% |
| 友人から誘われて | 6 | 8% |
| 小・中・高校からの通知 | 7 | 10% |
| 部局からの通知 | 14 | 19% |
| その他 | 7 | 10% |
| 計 | 89 | |
| 実数 | 72 | |

5. 講演の内容はあなたの期待に合っていましたか

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 期待した内容でとても良かった | 54 | 75% |
| まあまあ良かった | 17 | 24% |
| 期待に添わなかった | 0 | 0% |
| その他 | 1 | 1% |
| 計 | 72 | 100% |

〈以下、アンケートの自由記述欄の設問と回答〉　※貴重なご意見等のため、全文記載

●今後、障がい者の理解及び支援等に関する講演でどのような内容を希望しますか

| 【学内参加者】 |
|---|
| 企業の本音 |
| 保護者などに対して子供が発達障害のとき、どのようにサポートすべきか、心構えとか特に、その子が大学生の場合。 |
| 研究室の特性を持った学生の支援についての具体的事例を紹介する内容。 |
| 今回のように事例を入れたもの。 |
| 支援する方のメンタルヘルスについて。 |
| 就労支援における大学と学部の連携、支援活用について。 |
| 継続的支援のコツなど、具体的支援スキルの説明。 |

| 【学外参加者】 |
| --- |
| （可能な限り）具体的なケース |
| レジリエンスについて |
| 企業の採用担当者の本音を聞いてみたい。 |
| 外国人留学生で障害のある学生の対応。周囲への理解啓発について。 |
| 障がい者の支援、就労、雇用に関する社会的理解、認知を広めるために、財界や厚労省を巻き込んだ大会を開催できないものでしょうか。教育機関、支援機関だけでなく企業も行政もリンクして進めていかないと、行き詰ってしまうと思います。 |
| 当事者の意見を聞きたい。 |
| 当事者（学生、卒業者）の方のお話を聞いてみたいです。 |
| 担当者同士（大学と企業、事業所、支援センターなど……）が具体的なケースを元に検討する機会など（ケースカンファ的なものを通して支援のモデルケースを作るような） |
| 県外等、遠いところ（支援者から）の場合のサポートやフォロー。大学は県内外、多数の学生が入学するため、就職先も様々であると考えるため。 |
| 発達だけでなく、ジェンダーについての講演も聞いてみたいと思いました。 |
| 「発達障害」の講演、今回の講演はとても興味深く良かったです。 |
| 長崎大学が企画することに意義がある。長崎大学がするから、企業が注目する。何でも良いので、社会に向けて障がい学生について、発信して欲しいです。 |
| グレーゾーンの方の就職をする支援について。 |
| 障がい者を受け入れている企業の方に、もっと来ていただき幅広く聞きたいと思う。 |
| 当事者の職場での、学内での生の声をお聞きしたい。 |
| 今後の障害者雇用の幅（職種、仕事内容）と障害者雇用のキャリアアップについて。 |
| 本人の（当事者）の経験談も可能なら聞きたいです。 |
| 支援の個別ケースの紹介、色々なケースを知りたい。 |
| 就労に関する具体的な事例。企業側の対応に仕方、企業の相談先を知りたいです。 |

**●意見・感想**

| 【学内参加者】 |
| --- |
| 長大の採用担当者にも聴いてほしい内容でした。働く人を使う立場、上司の皆さんの基礎知識として知って欲しい。 |
| 日下部先生のお話がとても分かりやすかった。 |
| 日下部先生の講演が分かり易く、具体的で支援の参考になりました。 |
| 興味深いお話を有難うございました。 |
| 卒後フォローアップを就労に際しての連携のあり方について聴けて良かった。 |

| 【学外参加者】 |
| --- |
| 若者サポートステーション（厚労省事業）も支援の事業としてご考慮下さい。 |
| 「連携、対話」や「相思相愛」ということがとても印象的でした。本人の気持ちを置き去りにせず支援していくことが大切だと改めて感じました。 |
| 長崎大学での取り組みは参考になりました。大学もきめ細かいキャリア教育が為されていることに、時代を感じました。 |
| 発達障害者に対する支援は高校（特に進学校）ではとても遅れており、逆に上位の教育機関である大学で進んでいる事を改めて実感し、学校の教員として残念な思いを強く抱きました。長崎大学の発達障害のある新入生についても母校の高校から障害の情報支援要請がないのではないですか？きっと。高校の教員、高校教育課職員は、自分たちが支援を担うことを恐れ、逃げています。現在、長崎県の通級指導教室がある 6 つの通級担当者は 1 名を除き特別支援学校から派遣された教員です。 |
| 発達障害というカタチでなく、学生の個性にフォーカスすることが、とても大事と思います。思ったことを率直にいえる場づくりが良い協働のあり方と思います。1+1=≧2 になるような関係を作っていきたいです。 |
| 今まさに、困っている点について様々なヒントを頂ける機会でした。有難うございました。 |
| 勉強になりました。 |
| 過去 3 年間の 6 件の事例について、詳しく知りたかったです。（時間的に難しかったと分かっていますが…）グループで意見交換などできるとよかったです（領域別で…） |
| 富山大学の日下部先生のお話はとても分かり易く、我が子も（私立）大学生なのですが、取組などうらやましく思いました。（卒後のフォローアップもすばらしいです）2 部のそれぞれのお話もとても勉強になりました。ピーター先生の研究結果もこんな会社が増えたら良いなあと感じました。 |
| 色々な機関での立場での取り組みや意見を聴けて勉強になりました。こういう研修を通じて連携が深まり社会が変わっていくことを、期待したいです。 |
| 今日は有難うございました。またぜひ勉強させて頂きたいです。 |
| 富山大学の取組みである修学支援や就労移行支援等、発達障害者にとって、とても必要な取組みだと思いました。自己認知の大切さを子供の幼少期から親や支援者が意識してほしいですね。 |
| 産学官が連携して取り組んでいる会に参加でき、今後の職場で大変参考になりました。また、同様の会が開催されましたら、ぜひ参加させて頂きますので、宜しくお願いします。有難うございました。 |
| 大変意義がある講座でした。就学児、未就学児に関わる中で先のみえる希望のある内容を聞かせて頂いたと感じます。 |

| |
|---|
| すばらしい機会を有難うございました。長崎大学内のいわゆる「普通の学生」がもっと参加できるような関心をもてる企画、集客を期待しています。 |
| 大変参考になった。 |
| 大学院 2 年生の娘をもつ母親です。大学 3 年次から躁うつに苦しみ、ひきこもりの時期もあり、親子で悩んできました。本人は社会参加を望み障がい者雇用の道を選びました（現在、精神 3 級の手帳を取得しています）本日の講演内容は光が差し込む思いで聞かせて頂きました。 |
| 業務上の指示、指導をする上でも「何のためにそれが必要か理解する事」が大切だと日々感じており、その点がクリアできれば、発達障がいのある社員でも担当として責任をもって業務を行えています。本日、具体的なお話をいただけましたので、今後の業務に活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。 |
| 大学卒業後の支援とてもありがたい。マンパワーの問題があるので、無理を承知で申し上げるなら長崎でも進んでいくことを望みたい。 |
| 今、子供が高校生で小さい頃は色々な支援が少なくて、先が不安でしたが、随分支援が整ってきていて、進学、就職に関して前向きに考えることができ、良かったです。有難うございました。 |
| 有難うございました。特別扱いして特別な機関が支援するのではなく、地域、社会全体でお互い様意識で助け合えれば良いのにと感じました。 |
| 高校の教員です。大学の障がい学生の支援の現状をイメージすることが出来ました。高校（定時制です）の支援の在り方へのヒントを頂いたと思います。 |
| 日下部先生のお話が非常に良かったです。診断のない生徒をどうアクセシビリティにつなげるか等、職員体制などについても知りたいと思いました。 |
| 理解が一層深まりました。正しい理解と合理的な配慮を進めていきたいと感じました。 |

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

講演会参加後のアンケートについて 72 名（全参加者 130 名の 55%）から回答が得られた。回答した方の講演およびパネルディスカッションに対する満足度は高かった（「期待した内容でとてもよかった」及び「まあまあよかった」を合わせて全体の 99%に該当）。また、参加者の半分以上（83 名・64%）が外部からの方であったことから、今回のテーマへの感心の高さ、そして大学として公開講演会を実施する意義が明らかになったと考えられる。

アンケートの自由記述欄（今後聞きたい内容）では、学内関係者からは具体的な事例、就労支援における学内連携、支援の方法等といったテーマが挙げられた。一方、学外関係者からは同じく企業および当事者の話や事例を聴く機会に加え、今後の障害者雇用の幅（職種・仕事内容）や障害のある方のキャリアアップというテーマに関する希望が挙げられた。

アンケートの意見と感想の部分では、学内関係者からは連携を歓迎する声があった一方、本学の採用担当者にも「働く人を使う立場、上司の皆さんの基礎知識として知って欲しい」

というコメントがあったことから、障害にまつわる学内の意識改革がまだ十分でない可能性が示唆された。また、学外関係者からの感想では、講演内容が気付きにつながったこと、大学での支援の取り組みについて知ることができたこと、自身の行う業務に関するヒントが得られたこと、というように貴重な感想が多くあった。なお、「長崎大学が企画することに意義がある。長崎大学がするから、企業が注目する。何でも良いので、社会に向けて障がい学生について、発信して欲しい」という特に注目すべきコメントもあった。本学は「多様性」に関して学内・学外における意識改革および推進に取り組み、地域のリーダーとしての活躍が期待されているとを改めて実感したのである。一方、教職員の参加が外部の方に比べて少なかったことから、学内関係者の参加増につながるアプローチや工夫を検討すべき点として挙げられる。

これからも、今回いただいたような学内および地域の声に耳を傾け、応えられるように実践的な内容のFDと講演会を実施できればと考える。

１１．実施代表者の連絡先

部　局：障がい学生支援室
職　名：助教　　氏　名：ピーター・バーニック
e-mail：bernick@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２９４８

１２．申請者の連絡先

部　局：
職　名：　　（同上）　　氏　名：
e-mail：　　内　線：